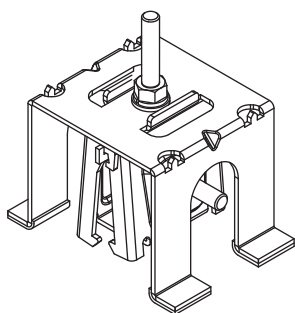




太陽電池モジュール用架台 据付工事説明書 〔傾斜屋根用〕

Easy e Rack

イージー e ラック



立平掴み金具DT

【目次】

・安全のために必ず守ること	P01
・注意および確認事項	P02
・部材一覧	P03
・据付前準備	P04
・設置条件	P05
・設置基準	P07
・施工手順〔架台取付〕	P08
〔太陽電池モジュール取付〕	P12
・オプション部材 施工手順	P14

【設置工事をされる方へのお願い】

- 据付工事を始める前に施工研修を必ず受講するようにしてください。
- 据付工事を始める前に据付工事説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。
- 電気設備技術基準とその解釈に引用されている JIS C 8955:2017 に準拠した据付強度を確保するため、据付工事説明書の据付方法を守ってください。
- 据付工事は販売店・工事店さまが実施してください。（第2種電気工事士の資格必要）
 - ・据付工事は高所（2m以上）作業であり、感電のおそれもありますので防護手袋を着用し、「労働安全衛生規則」に従って施工してください。
- 取付けるための部材は必ず付属の部品を使用してください。
- モジュール1枚、同一系統の＋・－コネクタをループさせないでください。

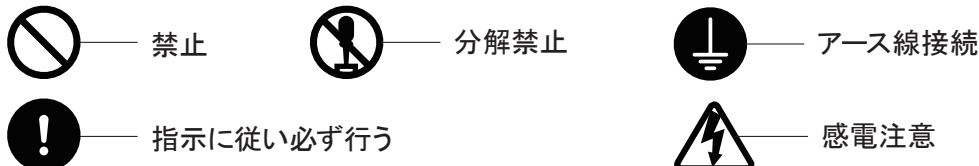


安全のために必ず守ること

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

 警告	作業を誤った場合に、据付工事業者または使用者が死亡や重症などに結びつく可能性があるもの。
 注意	作業を誤った場合に、据付工事業者または使用者が傷害または家屋・家財などの損害に結びつく可能性があるもの。

■ 図表記は次のとおりです。



警告！ ■ 太陽電池モジュール・アレイ(据付工事)についての警告事項

- | | |
|---|---|
|  太陽電池モジュールを分解しない。
(火災・感電・けがの原因となります。) |  太陽電池モジュールのバックシート(裏面)に傷をつけない。
(火災・感電の原因となります。) |
|  配線途中の電線や端子の充電部を素手で触らない。
(感電の恐れがあります。) |  太陽電池モジュール・架台およびその付属品は説明書に従い確実に取付ける。
(落下飛散の原因となります。) |
|  太陽電池モジュールのガラス面に載らない、物を載せない。
(ガラス割れや製品不具合を起こすことがあります。) |  配線工事途中の電線先端は必ず絶縁処理を行う。
(火災感電の原因となります。) |
|  降雨(雪)時、または雨や霧で屋根面がぬれている場合は施工しない。
(落下すると死亡・大けがの原因となります。) |  太陽電池モジュールのアース工事を行う。
(C種もしくはD種接地工事)
(アースが不完全な場合、感電の恐れがあります。) |
|  配線工事途中のケーブル端は、必ず絶縁処理を行う
(漏電に伴う火災や感電の原因となります。) |  工事部品は必ず付属品または当社指定品を使用し、説明書に従い確実に締め付ける。 |
|  コネクタ内部に水分が入った場合、コネクタ結合前に乾燥させる。
(コネクタ内に水分を残留させた状態でコネクタを結合した場合、コネクタ内に付着した水分により漏電、発熱、発火の危険性があります。雨天時の施工は避けてください。) |  据付工事作業中は安全帯(命綱)・腰袋・防護手袋を着用する。落下防止用の足場を作る。
(落下事故防止、感電防止になります。) |
|  コネクタの嵌合部を汚さない。
(嵌合部に異物が入る事で、絶縁性を低下させる可能性があります。) |  コネクタ付近でケーブルを屈曲させない。
(コネクタ内部にダメージを与え、漏電、発熱、発火の危険性があります。) |
|  コネクタを嵌合するときには奥まで完全に差し込まれた事を確認する。
(コネクタの嵌合が緩み、漏電、発熱、発火の危険性があります。) |  コネクタを直接結束バンドで固定しない。
(コネクタに負荷がかかり、絶縁性を低下させる可能性があります。) |
|  ケーブルの固定にステップルを使用しない。
(被覆損傷等で漏電・火災の原因となります。ケーブルクリップやクランプ、モール材、結束バンドを使用してください。) |  ケーブルをフレームや架台、金具などの間に挟まない。
(ケーブルが破損し、火災や感電の原因となります。) |
| |  ケーブル、アース線の端子部に触れない。
(漏電に伴う火災や感電の原因となります。) |

注意！ ■ 太陽電池モジュール・アレイ(据付工事)についての注意事項

- | | |
|---|---|
|  太陽電池モジュールのバックシートに突起物などが容易に触れない場所に取付ける。
(誤って太陽電池モジュールのバックシートを傷つけると、火災の原因となります。) |  太陽電池モジュールに積もった雪が落ちて、けがや器物破損のないようにする。
(太陽電池モジュールを据付けた屋根面の雪は通常の場合より一度に落雪しやすくなります。) |
|  太陽電池モジュール据付用の部材・部品の取扱いには十分に注意する。 |  工事中に屋根材を破損した場合は専門の屋根業者に補修を依頼する。(雨漏りの原因となります。) |

◆ 施工に関する注意および確認事項

【新築屋根への取付け】

屋根葺き施工と同時作業になるなど、作業が干渉することがありますので、屋根葺き施工業者と十分な打合せを行い、作業を進めてください。また、事前に屋根材の種類、葺き方などを確認して作業を進めてください。

【既築屋根への取付け】

築年数や地域により屋根材・屋根構造材の耐力が劣化している場合があります。屋根材・屋根構造材が劣化している場合は無理に作業を行わないでください。墜転落事故または建築物損壊につながります。また、屋根の上を歩くときは破損しないよう十分注意して作業を進めてください。

【新築・既築屋根 共通】

- 部材置き場を十分に確保し、部材の破損、損傷に注意してください。屋根上に部材を置く場合は、落下による破損・損傷に注意してください。
- 屋根材と架台金具(支持部材)が適合していない場合は、無理に取付けしないでください。雨漏りの原因になります。
- 部材の設置には、必ず付属のボルト、ナット、ビスなどを指定数量使用し、緩みや締め忘れの無いように施工してください。
- 屋根材・屋根構造材などの建築物の強度について、設置に耐えられる強度が十分にあることを事前に確認してください。
- 作業中に屋根材を破損した場合は、必ず新品と交換してください。また、誤って屋根葺き材を破損した場合は専門の屋根工事業者に補修を依頼し適切に処置してください。

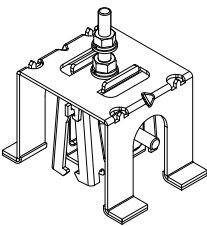
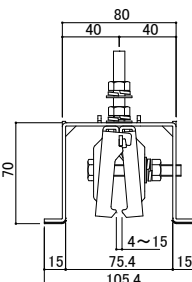
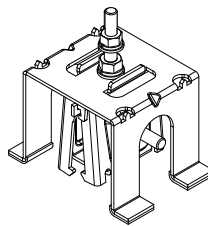
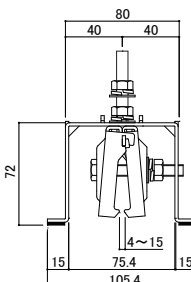
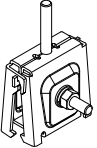
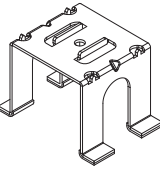
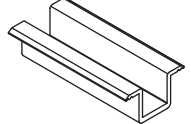
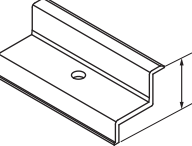
◆ 作業場の安全に関する注意および確認事項

地上高2m以上および墜転落の危険のある場所で作業するときは、「労働安全衛生規則」に従って作業をしてください。

- 据付け、取付け作業中は、墜落制止用器具(安全帯)・作業保護具を必ず着用、使用して作業を行い、墜転落事故のないようにしてください。
- 作業するにあたり墜転落を防止するために、作業足場の設置や親綱を張って安全帯を付けるなど、墜転落のないようにしてください。
- 屋根上で作業するときは、地下足袋など靴の底が滑りにくいものを着用してください。
- 作業中に作業範囲内およびその近辺(特に軒下周辺)に第三者が立ち入らないように注意し、また、工事資材以外のもの(自動車・自転車・植木など)を置かないようにしてください。
- 破損、汚損しやすいものがある場合は退避または養生してから作業してください。
- 機材・工具など使用方法を必ず守ってください。
- 地上でできる作業は事前に地上で作業してください。
- 部材(架台金具など)を扱うときには、軍手または皮手袋などを着用し、手を保護して作業してください。



部材一覧

立平掴み金具セット DT1 [C3030]DT1-1 / [C3031]DT1-2		立平掴み金具セット DT2 [C3034]DT2-1 / [C3032]DT2-2		
				
(本体) ZAM (台座) スチール		(本体) ZAM (台座) スチール		
掴み金具 本体	台 座	六角ナット M8	平ワッシャー (平 W) M8	スプリングワッシャー (SW) M8
		 × 2 SUS304	 × 2 SUS304/ 高耐食コーティング*	 × 2 SUS304
[D0189 / D0154] PV 押え金具Ⅲ (DT) L=100		[D016*] PV 端部押え金具Ⅲ L=100		
 アルミ		 アルミ		

商品コード	品 番／商品名	規 格	色	適合モジュール厚
15000280	C3030 / 立平_掴み金具セット DT1-1	M8 × 45		30 ~ 40 mm
15000281	C3031 / 立平_掴み金具セット DT1-2	M8 × 55		46 mm
15000282	C3034 / 立平_掴み金具セット DT2-1	M8 × 45		30 ~ 40 mm
15000283	C3032 / 立平_掴み金具セット DT2-2	M8 × 55		46 mm
15000378	D0189 / BK_ER_PV 押え金具Ⅲ	L=100	ブラック	
15000186	D0154 / SV_ER_PV 押え金具Ⅲ	L=100	シルバー	
15000379	D0190 / BK_ER_PV 端部押え金具Ⅲ	L=100	ブラック	30 mm
15000400	D0193 / BK_ER_PV 端部押え金具Ⅲ			32 mm
15000347	D0161 / BK_ER_PV 端部押え金具Ⅲ			35 mm
15000348	D0162 / BK_ER_PV 端部押え金具Ⅲ			40 mm
15000221	D0164 / SV_ER_PV 端部押え金具Ⅲ		シルバー	46 mm



据付け前準備

【準備物】※ 印は、オプション部材として手配可能です。

■ 現場調達部材		■ 出力測定器具／保護具	
	アース線 IV5.5mm ²		テスター(直流電圧レンジ400V以上)
	アース用端子 5.5-5		アーステスター
	アース用ドリルビス(SUS) M5×13		軍手
	銅ビニルバインド線(結束バンド) BCV1.2		低圧用ゴム手袋
	絶縁テープ		保安帽
	PFD管		墜落制止用器具(安全帯)
	接地棒 VCS-8.0 又は 8.5 (リード線付)		電工ベルト
	※遮光シート(防水性有り)		腰袋
	※養生テープ		防塵マスク
	※インシュロック(屋外用)		保護めがね
			地下足袋 又は 底裏に滑り止めがついた靴

■機材・工具類

墨出し					
☐ 赤鉛筆	☐ 墨つぼ(チョークライン)	☐ 巻尺(5m以上)	☐ 水系	☐ 油性インキ	
電気配線					
☐ ニッパー	☐ 電工ナイフ	☐ 圧着ペンチ	☐ ペンチ	☐ +ドライバー	☐ -ドライバー

太陽電池 据付用工具／消耗品	
	電動ドライバー(トルク管理が可能なもの)
	充電式インパクトドライバー
	ソーラーリフト
	トルクレンチ (測定トルク 10.0,12.5N・mを測定できるもの)
	六角ボックスレンチ(対辺13mm)
	六角ソケットビット 対辺13mm×55mm
	スパナ(対辺13mm)
	+ビット(H形2番)

✓ ← 用意した部材等のチェックに使用してください。

【屋根材の条件】

□ 屋根材の仕様

(単位:mm)

屋根形状			
DT 1		DT 2	
屋根材板厚／ 0.35mm以上 屋根材材質／ ガルバリウム鋼板、GLカラー鋼板、カラスステンレス 吊子／ 吊子一体型屋根材または通し吊子 ※上記形状でもハゼ部首下の幅が広いなど、取付けできない場合がありますので、事前の取付確認をおこなってください。			

【屋根材固定部材】

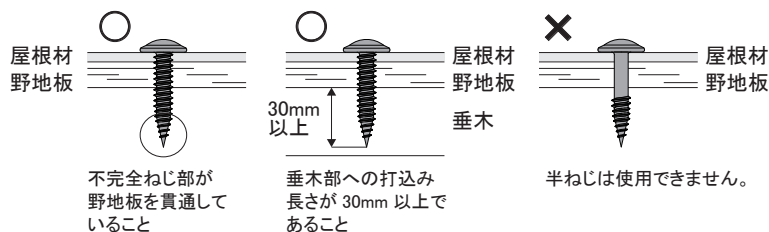
□ 吊子固定ビスの製品例 (製品名称は、ビスメーカーによって異なる場合があります。)

製品名称	呼び径:d	頭部径:D	ねじ長さ:L	形状例
低頭ビス	φ 5.0mm 以上	10mm 以上	25mm 以上	
シンワッシャー コーススレッド	φ 4.8mm 以上	10mm 以上	25mm 以上	

□ 吊子固定ビス留め付けピッチ

野地板	455mm以下
-----	---------

ねじ長さについて～



【屋根下地材の条件】

垂木	[仕様] 幅 38mm × 厚さ 40mm 以上 [ピッチ] 455mm 以下
野地板	[仕様] 構造用合板 板厚 12mm 以上 特類 2 級 C-D 以上

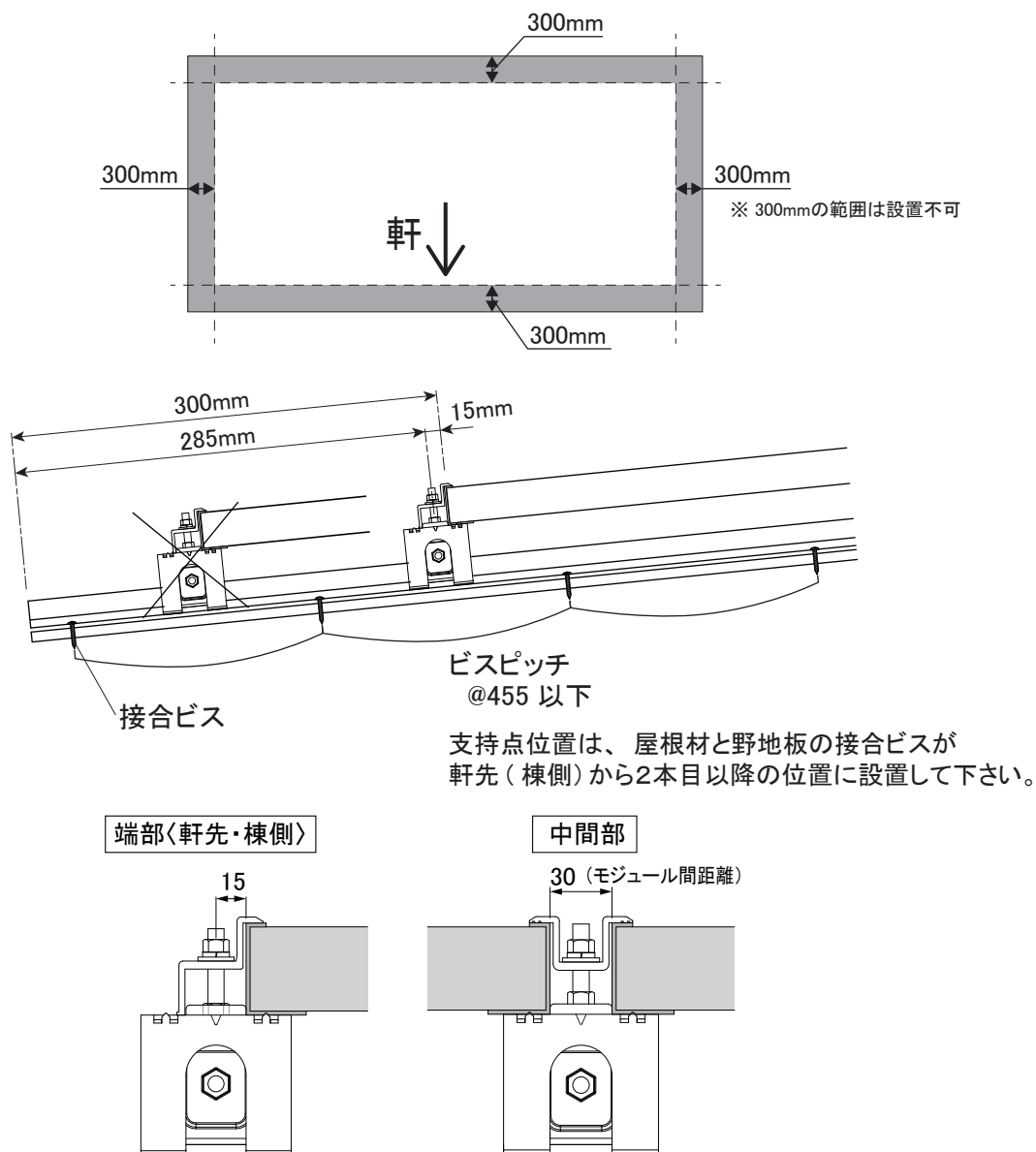
【設置禁止条件】

- 建物などの日陰となる場所への設置
- 天窓などの採光用の窓を覆う設置
- 太陽電池モジュールの設置基準を満たしていない場合
- 屋根材の設置基準・施工基準を満たしていない屋根
- 屋根以外への設置（ベランダ、壁面、地上など）
- 適用屋根以外の屋根材への設置（瓦屋根、スリット有化粧スレート、折板屋根、スレート波板、陸屋根、銅板葺き屋根、杉皮、土葺き、むくり屋根、反り屋根、カバー工法など）
- 設置条件以外の屋根
- 屋根表面が著しく劣化・腐食（赤錆・破損等）している屋根
- 野地板、垂木に雨漏りの形跡がある屋根
- 野地板間に隙間がある場合
- 支持部が屋根の役物を崩すような余裕のない支持部の配置
- 過度の煙、塵埃、火山灰や温泉の成分が直接かかる屋根
- 海岸より飛散した海水が直接かかる地域
- 亜熱帯海洋性気候に類似した地域
- 野地板がALCパネルの場合
- 振動や衝撃を常時受ける場合

【設置範囲】

オフセット…軒・棟から 300mm（軒先からボルト芯まで 285mm 以上、モジュールまで 300mm 以上）
 けらばから 300mm

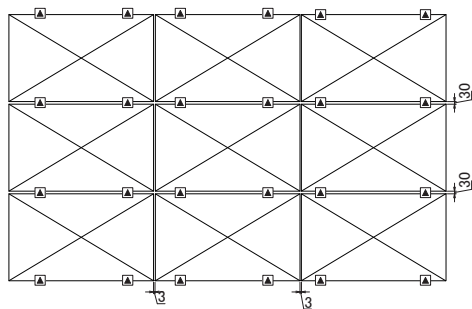
- ・ 太陽電池アレイの平均高さは、別途『設置基準表』をご参照ください。



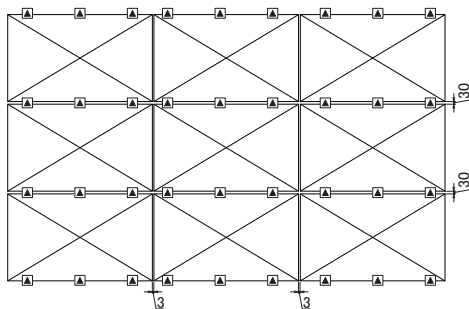
【 モジュールの固定位置 】 ※6点・8点固定は、ハゼピッチによっては施工できない場合があります。

●矩形配列

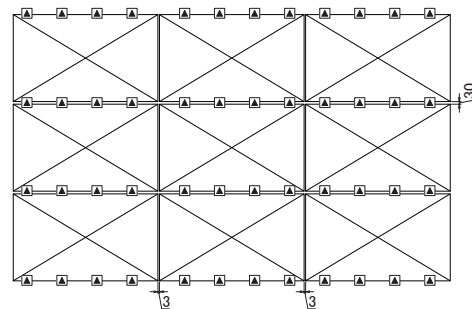
4点固定



6点固定

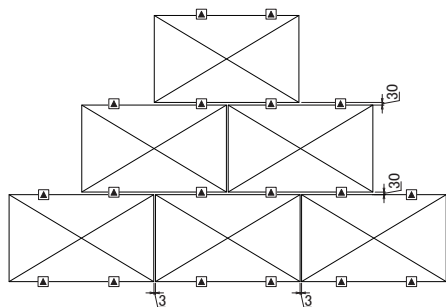


8点固定



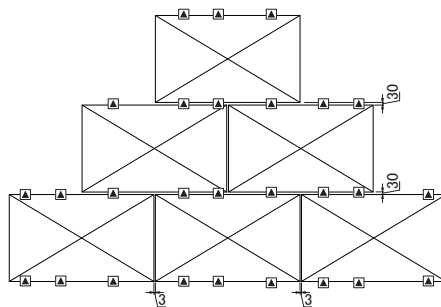
●千鳥配列

4点固定



6点固定

※多雪区域は設置不可



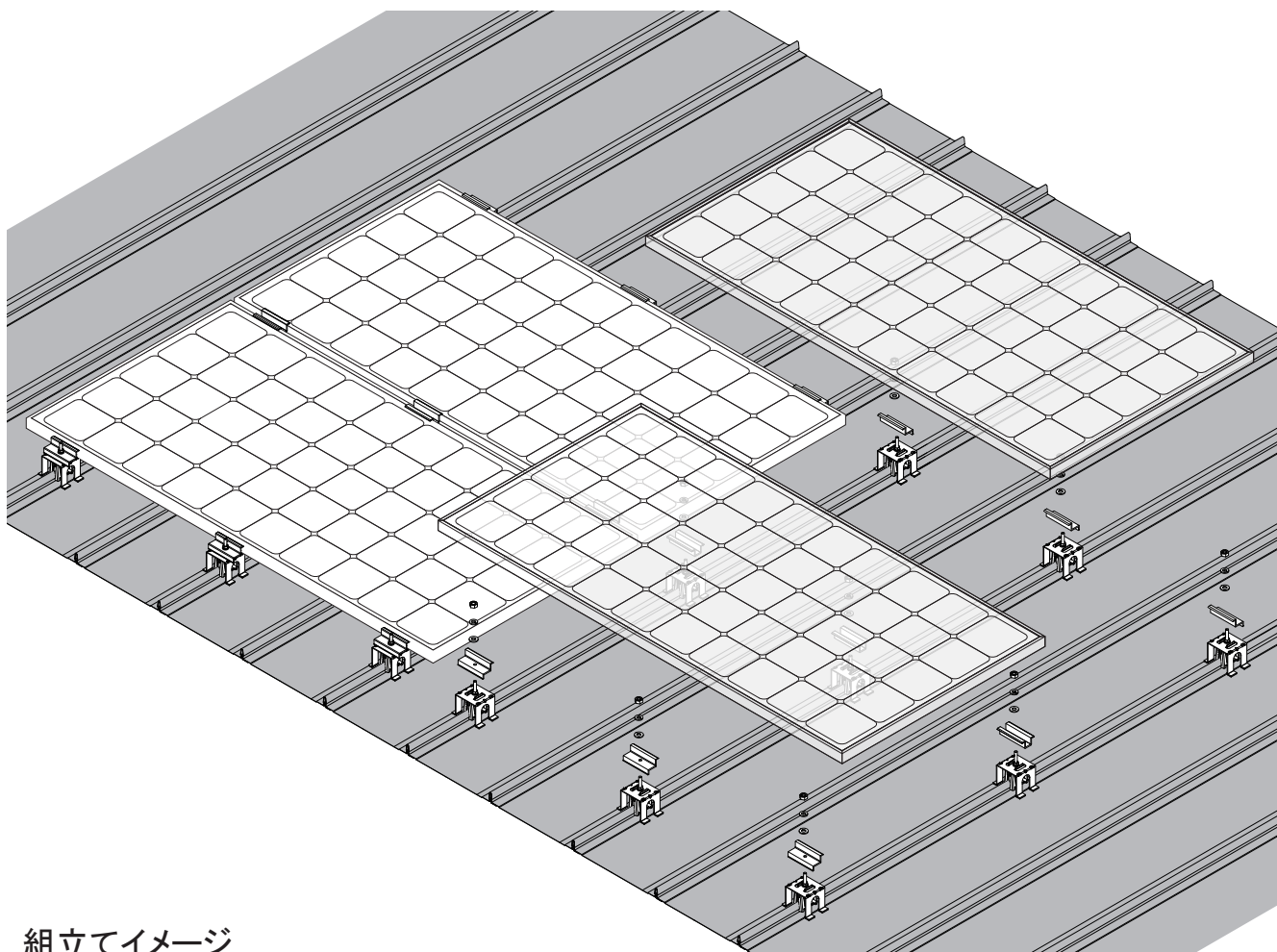
8点固定

設置不可

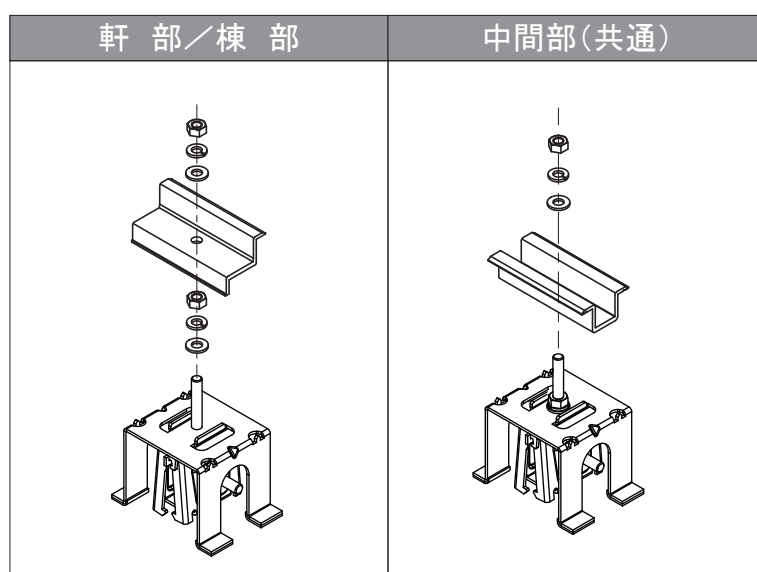
※金具位置は、各モジュールメーカーの金具取付位置基準を満たすように注意してください。
(モジュールの条件によっては、モジュール間を広げたり金具個数を増やす必要があります。)

※実際の割付図・設計に基づいて設置をしてください。

設置条件によっては、外周部の金具個数を増やす等をおこなってください。

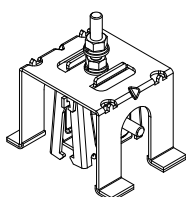


組立てイメージ



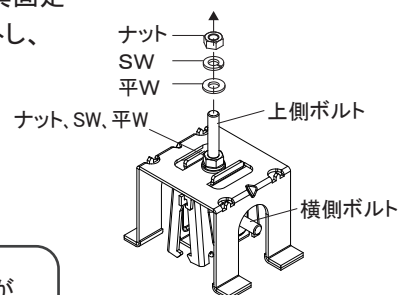
1 立平掴み金具の留め付け方法

納品時の状態



押え金具固定用のナット、SW、平Wが仮組みされています。

- ①-1 屋根材に取り付ける際に使用する押え金具固定用のナット、SW、平Wを各1個ずつ取り外し、更にその下のナットを軽く緩めてください。

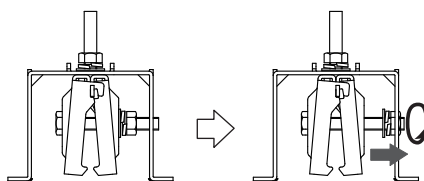


注意

上側ボルトのナットを緩めすぎると、掴み金具が外れることがあります。緩める際は、SWがナットに触れている程度に軽く緩めてください。

- ①-2 次に上側ボルト及び横側ボルトについているナットを緩めてください。

(端部・中間部共通) 横側ボルト

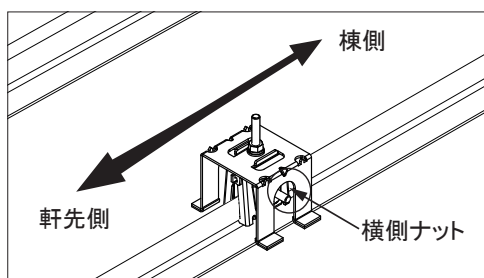


横側のナットは、ハゼ幅に合わせて締める量を調節して下さい。この時、ナットが外れないように注意してください。

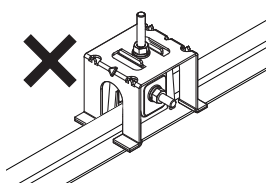
注意

上側ボルトのナット等を取り外す際、下部の掴み金具が外れるおそれがあります。掴み部が外れないように持ち、ナット等を取り外してください。

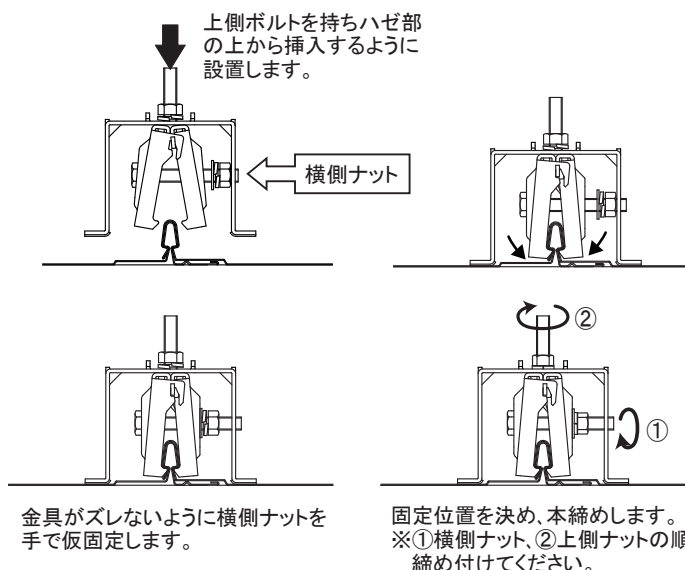
- ② 屋根材に下記のように取り付けてください。



注意



台座と掴み金具の向きに注意してください。



金具がズレないように横側ナットを手で仮固定します。

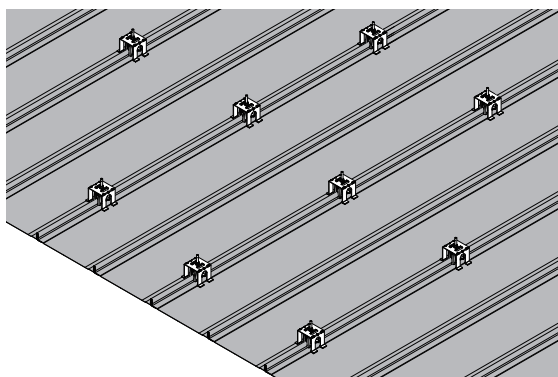
固定位置を決め、本締めします。
※①横側ナット、②上側ナットの順に締め付けてください。

2 掴み金具の仮置き

- ① 割付図などを参考に、屋根上に掴み金具を仮置きしてください。

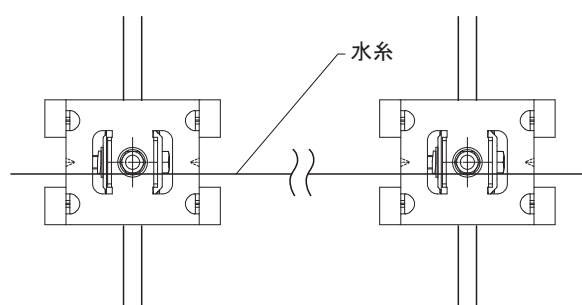
⚠ 注意

仮置きした掴み金具が落下しないように注意してください。

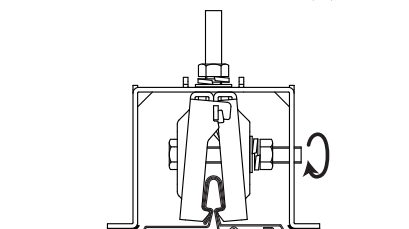


3 掴み金具(軒先)の固定

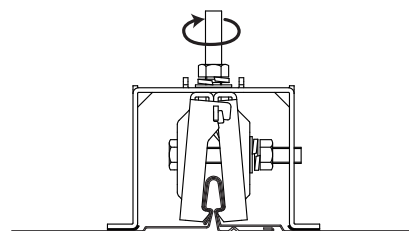
- ① 掴み金具に水系を張り、墨出ししてください。
はじめに軒先基準線を墨出ししてください。



- ② 前ページの立平掴み金具の留め付け方法を参考にして墨出しを行った後、掴み金具の横側ナットを締め付けてください。



- ③ 次に、掴み金具の上側ナットを締め付けてください。
※横側→上側の順に締め付けた後、再度横側ナットに緩みが無いか確認を行ってください。



⚠ 注意

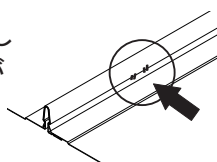
横側ナット→上側ナットの順に締め付けてください。
先に上側を締め付けると金具が取りつかないことがあります。
上側ナット締め付け後は、横側ナットに緩みが無いか締め付けトルクを再度確認してください。

⚠ 注意(禁止)

ナットを締め付けた後でハンマーなどで無理にたたき動かさないでください。
屋根材が破損するおそれがあります。

⚠ 注意

ナットを締め付けた掴み金具を取り外して他の場所に設置する場合は、金具が取りついていた位置のハゼ部に、常温亜鉛めっき塗料で補修してください。



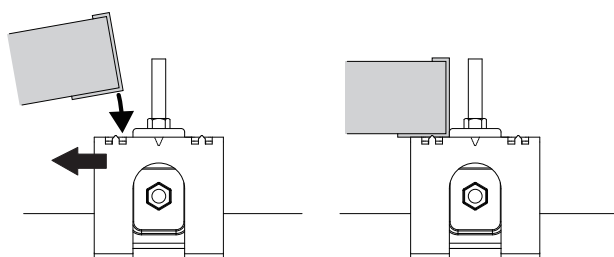
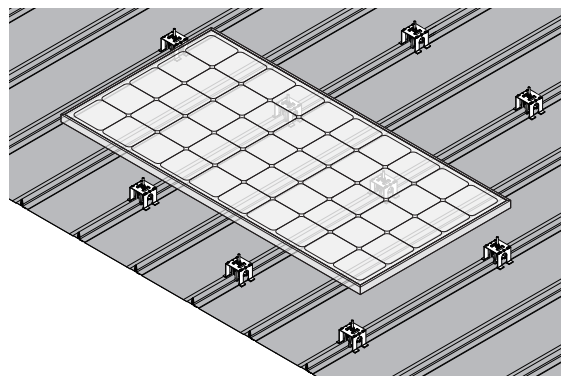
POINT

締め付けトルクは、10～12.5N・m

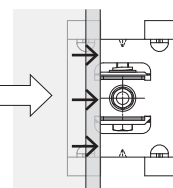
4 PVモジュールの設置

① PV モジュールを掴み金具に設置してください。

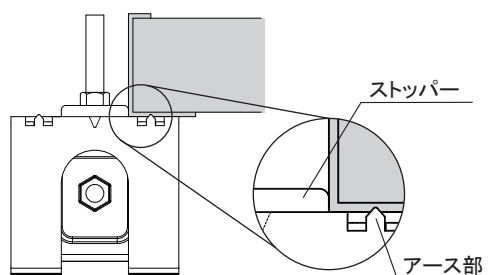
② 棟側の掴み金具を PV モジュールに当たるまでスライドさせ、PV モジュールが棟側の掴み金具に載るように設置してください。



掴み金具のストッパー部に PV モジュールが水平に当たっている事を確認してください。



⚠ 注意



台座のアース部に PV モジュールが乗っていることを必ず確認してください。

台座には PV モジュールのストッパーがついています。上側ボルトを締め付ける際は、ストッパーが PV モジュールに確実に当たるように十分注意して施工をおこなってください。

⚠ 注意

PV モジュールと台座の間でケーブルが噛み込んでいない事を確認してください。火災の原因になるおそれがあります。

③ 設置後、**3** ②③と同様、掴み金具の横側→上側の順にナットを締め付けてください。



先に横側ナットを締め付けます。

次に上側ナットを締め付けます。

POINT

締付トルクは、10～12.5N・m

④ 2列目以降も同様に設置してください。

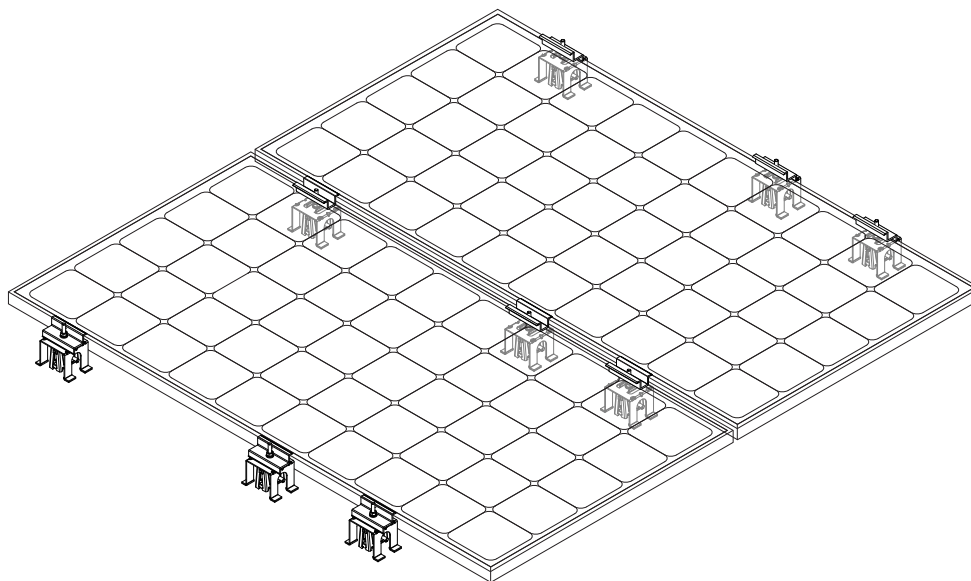
重要

次の PV モジュール設置に移る前に、各ナットの緩みがないかを必ず再確認してください。

太陽電池モジュール 施工手順

1 PVモジュールの設置

下図を参照し、下記手順でPVモジュールを設置してください。

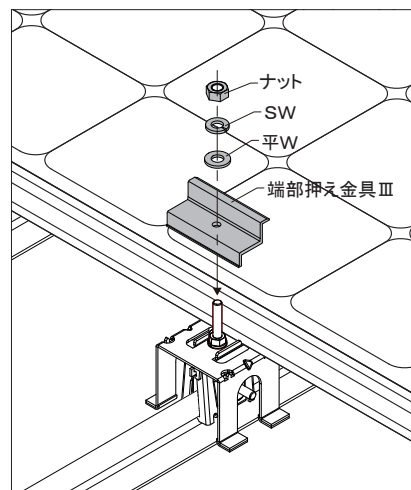


2 PVモジュールの固定

軒先→ モジュール間 →棟側 の順に押え金具を取り付けます。

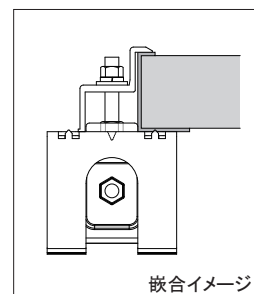
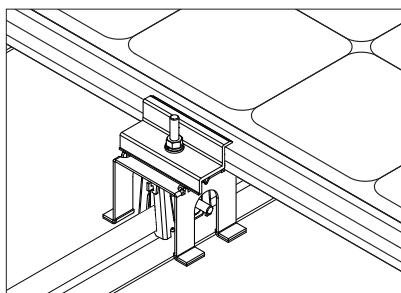
端部押え金具の取付け [軒・棟側 共通]

- ① 端部押え金具Ⅲを掴み金具の上に配置してください。
- ② ボルト部分に、初めに取り外したナットとワッシャーを平W→SW→ナットの順に挿入してください。
- ③ モジュールが動かないように手で固定するなどして、ナットを締め付けてください。



POINT

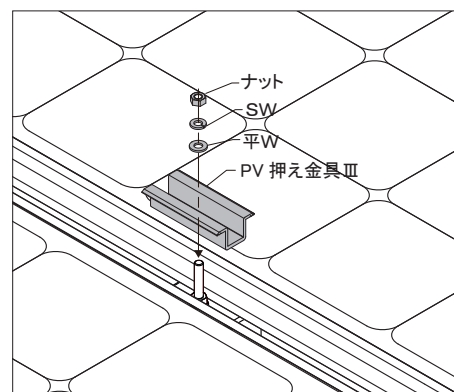
締付トルクは、10～12.5N・m



嵌合イメージ

中間押え金具の取付け [PV モジュール間]

- ① PV 押え金具Ⅲを配置してください。
- ② ボルト部分に、初めに取り外したナットとワッシャーを平W→SW→ナットの順に挿入してください。
- ③ PV モジュールが動かないように手で固定するなどして、ナットを締め付けてください。

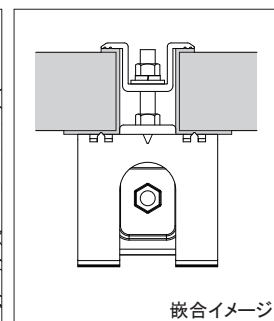
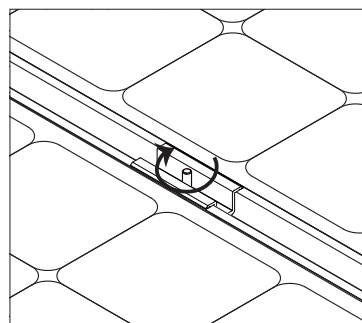


⚠ 注意

PV 中間押え金具Ⅲの締め付け時、PV モジュールに乗らないでください。

POINT

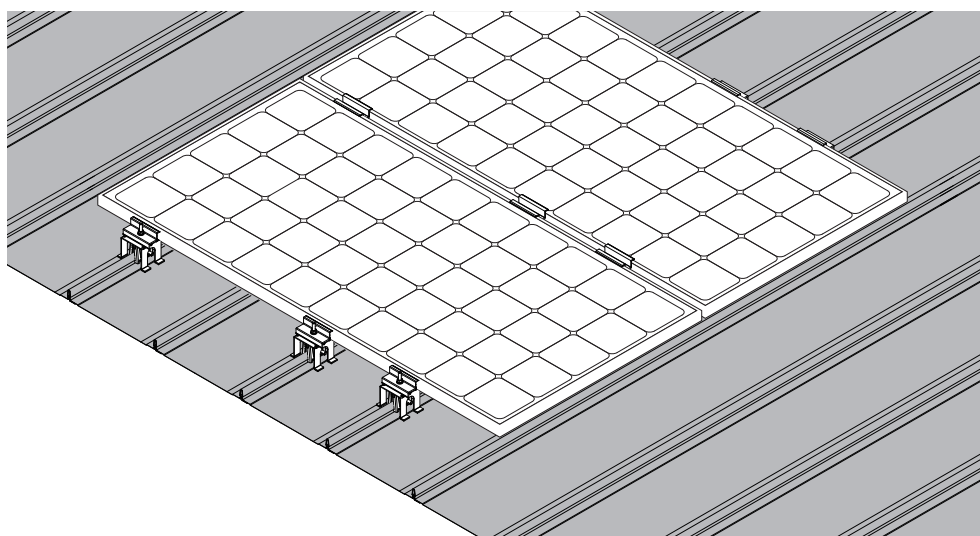
締め付トルクは、10～12.5N・m



◆設置完了

重要

設置完了後、各ナットの緩みが無いかを必ず確認してください。



軒カバーⅢを取付ける際は下記手順で施工してください。

- ① 軒カバーⅢを取付ける掴み金具の上に、端部押え金具Ⅲ、軒カバーⅢ用受け金具(以下「受け金具」)の順に置いてください。

必要部材 (数量は1箇所当り)		
部材名	型 式	数 量
軒カバーⅢ	B0692	1
軒カバーⅢ用受け金具	D2201	1※

※軒カバー部の掴み金具1箇所あたり

- ② 受け金具取付け箇所、軒カバーⅢを引っ掛けてください。

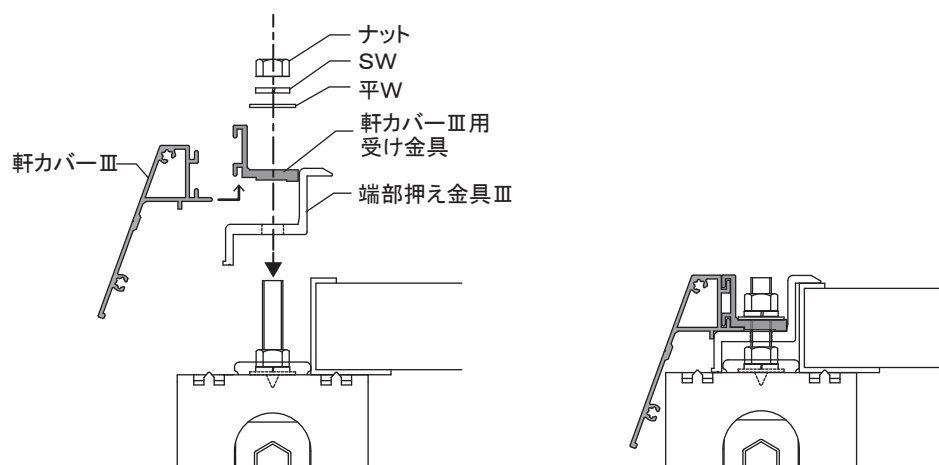
⚠ 注 意

多雪区域では、設置不可

- ③ 平W→SW→ナットの順に挿入して、
〈PVモジュールの施工手順 2 (PVモジュールの固定)〉に
準じナットを締め付けてください。

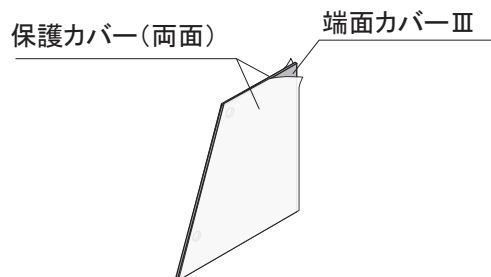
⚠ 注 意

軒カバーⅢを受け金具へ確実に挿入して
取り付けてください。



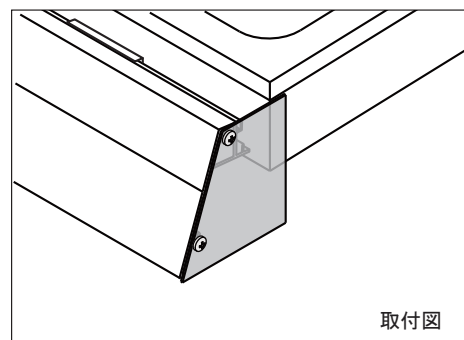
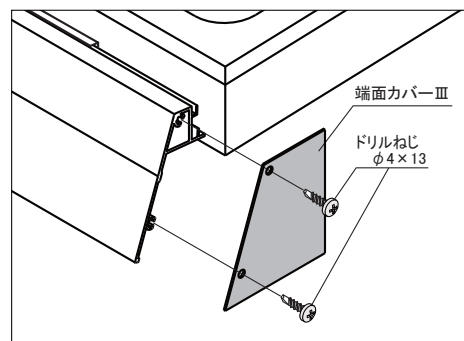
端面カバーⅢは、軒カバーⅢの端面を金具でカバーする場合に使用してください。

端面カバーⅢの両面の保護カバーを取付ける前に剥してください。



必要部材 (数量は1箇所当り)		
部材名	型 式	数 量
端面カバーⅢ	F2202	1
ドリルねじ $\phi 4 \times 13$	F9217	2

- ① PVモジュールの軒側に固定した軒カバーⅢのビス穴と端面カバーⅢのビスを合わせてください。
- ② 端面カバーⅢが動かないように確実に押えた状態で、端面カバーⅢのビス穴2箇所ドリルねじ2本を取付け固定してください。



ネームプレートを取付ける場合に使用してください。

① ネームプレートの取付け

ネームプレートが動かないように確実に押えた状態で、ネームプレートのビス穴2箇所ドリルねじ2本を取付け固定してください。

必要部材（数量は1箇所当り）		
部材名	型 式	数 量
ネームプレート	—	1
ドリルねじ $\phi 4 \times 13$	F9217	2

※両面テープで貼付けるネームプレートの場合は、メーカー指定の取付け方法に従い取付けてください。

